

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

「一年の計は元旦にあり」

「二年の計は元旦にあり」という言葉があるように、新年を迎えたときの新たな気持ちは大切にしたいと思っ

品でも出したらよかったですね！」とアシスタントと笑いあい、お会いした年度だけでは決められないことに気が付いた。

年も元気に生き続けることを宣言している、ということでもあるだろう。さて、今年はどうなるのだろうか？

そんな気持ちの表われの一つとして年賀状を大切に考えるほうではあるが、いざ暮れの年賀状シーズンになると、他のことに追われながら年賀状を書くのは一仕事だ。

プライベートを含め、皆さんはどうやって年賀状を処理されているのだろうか？もう一〇年以上前にリフォームをさせていただいたお施主様から頂く年賀状には、当時の自分が投影されてしみじみとした気持ちになる。小学生だったお嬢さまが就職戦線の心配をしていらしたり、伴侶の老いを感じて少し不安を感じていたり、頂いた年賀状を読み返しながら、こんな時代に下さる方には、やはりどんなに忙しくてもお出ししなければと感じる。

すでに三月までの講演九回のスケジュールは決まった。他の連載依頼もきている。一枚一枚月ごとにめくられるピカピカのカレンダーを眺めながら、またあわただしく始まる今年の一年に思いを馳せた。

年頭の仕事は年賀状の整理から始まるが、年賀状と格闘した暮れのあわただしさが思い起こされる。

ちなみに当社のカレンダーは、地球環境にやさしい竹から作られている非木材紙を使用し、リフォームのエスキース(イメージスケッチ)と月の満ち欠けが描かれたもので、とても使い勝手がいいと評判だ。なかには、どうしても二冊いただきたいとおっしゃる方も

暮れに「年賀状はどうしますか？」とアシスタントから催促がきた。毎年増える年賀状にどこかで区切りを付けようと考え、まず、一年間で新たにお会いした方を優先して出すことにした。名刺の数を確認したが、一年で名刺交換した方は三〇〇人を超えた。

「三〇〇人目の方に記念品でも出したらよかったですね！」とアシスタントと笑いあい、お会いした年度だけでは決められないことに気が付いた。

プライベートな年賀状は、生きていく証拠！ 今



「三〇〇人目の方に記念



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。